

主 題：試練による成長

聖書箇所：ヤコブの手紙 1章1－4節

今朝、皆さんとともにみことばを学べますことを心から感謝いたします。ひとこと祈ります。
「愛する天のお父様、御名を心から誉め称えます。どうか今日の礼拝を通してあなたが私たちにあなたの真理を分かり易く教えてください。私たちがこの1週間もいただいたみことばを通して生活できますように。どうか弱い私たちひとり一人をあなたが強め励ましてくださいますように。イエス様のお名前によってお祈りします。アーメン」。皆さんには必ず試練がありますと、このように言われたら皆さんはどんな思いを持たれるでしょうか？この「試練」ということばが意味するところは「苦しみ、悲しみ、そして、困難」です。そのような状態を言い表すこの「試練」が私たちの身に起こることを「ウエルカム！歓迎する」とそのように願う人は少ないのではないのでしょうか？多くの方は試練が自分の身に起こること、自分に降りかかることは「ノーサンキュウ、結構です」と思うかもしれません。

今日、私たちはこのヤコブの手紙を通して、私たちキリスト者に意図された試練がどこから来てどのような結果をもたらすのかをgoいっしょに学んでいきたいと思えます。そして、この学びを終えた時に、主の計画はいつも私たちにとって最善であり、主から来る試練が私たちの信仰の成長のために必要な主の刈り込みであることを皆さんが知る、そのような機会となることを願っています。また、まだ主イエス・キリストを信じておられない方がおられるなら、ぜひ、試練の深い意味を知っていただき、主イエス・キリストをあなたの救い主として受け入れてくださるよう強くお勧めいたします。

今日与えられている聖書はヤコブの手紙の1章1節から4節です。その箇所を読みます。

「1:1 神と主イエス・キリストのしもべヤコブが、国外に散っている十二の部族へあいさつを送ります。:2 私の兄弟たち。さまざまな試練に会うときは、それをこの上もない喜びと思いなさい。:3 信仰がためされると忍耐が生じるということを、あなたがたは知っているからです。:4 その忍耐を完全に働かせなさい。そうすれば、あなたがたは、何一つ欠けたところのない、成長を遂げた、完全な者となります。」

1. 序 : この手紙の特徴

この手紙の特徴を簡明に皆さんにお話ししたいと思います。ヤコブの手紙は信仰生活における実践的なことを重視して記されています。別のことばで言うなら「行いの重要性」を記しています。ですから、1:22にはこのように書かれています。「また、みことばを実行する人になりなさい。自分を欺いて、ただ聞くだけの者であってははいけません。」と。「みことばを実行する人になりなさい。」とヤコブは言うのです。このヤコブの手紙はパウロの手紙とよく比較されます。

パウロの手紙 : 教理的な面を強調して書かれています

ヤコブの手紙 : 実践的な面を強調しています

問題は、ヤコブは「行いによって救われる」とそのように言っているのではないか？ということです。救いに関しては両者とも同じです。「恵みにより信じる信仰によって救われる」こと、これはパウロもヤコブも変わりません。ただ、ヤコブが強調するところは「救われた者には行いが伴う」ということです。そのことをヤコブは2:26でこのように言っています。「たましいを離れたからだは、死んだものであるのと同様に、行いのない信仰は、死んでいるのです。」と。ヤコブは「救われた者には必ず行いが伴う」と教えています。これがヤコブ書の特徴です。そのことを踏まえて、今日の聖書箇所を見ていきたいと思えます。

2. あいさつ 1:1

1節にはこれはヤコブから送られる手紙であるということが記されています。挨拶です。ヤコブは自分のことを「神と主イエス・キリストのしもべヤコブ」と言っています。簡明です。この「しもべ」については、先週、前山長老からも説明があった通り、使われていることばは「「デューロス」という「奴隷」を意味することばです。だから、ヤコブは「神の奴隷であり主イエス・キリストの奴隷である」と言うのです。もっと言うなら「主イエス・キリストは私の救い主です」となります。そのヤコブから「国外に散っている十二の部族へ」と、これが受取人です。

・**十二の部族** : これはユダヤ人を表したことばです。では、国外に散っているすべてのユダヤ人にこの手紙が出されたのか？そうではありません。なぜなら、2節の冒頭に「私の兄弟たち」と記されていますから、ヤコブが送ったこの手紙を受け取るのは「ユダヤ人キリスト者」ということが分かります。

・**国外に散っている** : 「十二の部族」の前に「国外に散っている」という修飾することばが付いています。17年版の聖書には「離散している」と書かれています。それはユダヤ人たちが住んでいる所から、この当時のローマ世界に広く散在しているユダヤ人キリスト者たちのことです。彼らに向けてこの手紙は書かれたのです。「散っている」とはもっと詳しく言うなら「散らされた」ということです。何かの理由があって「散らされた」わけです。それは彼らの身に迫害や困難が及んだためです。

そのことが記されている箇所をごいっしょに見ましょう。使徒の働き8:1、4「:1 サウロは、ステパノを殺すことに賛成していた。その日、エルサレムの教会に対する激しい迫害が起こり、使徒たち以外の者はみな、ユダヤとサマリアの諸地方に散らされた。…:4 他方、散らされた人たちは、みことばを宣べながら、巡り歩いた。」、11:19「さて、ステパノのことから起こった迫害によって散らされた人々は、フェニキヤ、キプロス、アンテオケまでも進んで行ったが、ユダヤ人以外の者にはだれにも、みことばを語らなかった。」、サウロ（パウロ）はアンテオケへと進んで行くのですが、その理由が9:1-2にこのように書かれています。「:1 さてサウロは、なおも主の弟子たちに対する脅かしと殺害の意に燃えて、大祭司のところに行き、:2 ダマスコの諸会堂あての手紙を書いてくれるよう頼んだ。それは、この道の者であれば男でも女でも、見つけ次第縛り上げてエルサレムに引いて来るためであった。」と。

パウロがダマスコに行ったその目的は、散らされた人たちを捕らえてまたエルサレムに連れ帰って来て、彼らに危害を加え混乱を与えるためでした。今見ているヤコブの手紙はそのように国外に散っている兄弟たちに宛てて書かれたのです。だから、受け取ったユダヤ人キリスト者たちは何らかの困難な状況にあったということが分かります。

3. 試練に対する応答 1:2

2節には「私の兄弟たち。さまざまな試練に会うときは、それをこの上もない喜びと思いなさい。」とあります。これは「試練に対する応答」で、それは「喜びと思いなさい」ということです。

・**試練** : ここで日本語に訳されている「試練」ということばは、使われているギリシャ語の元の意味は「試みる、試す」です。同じことばが1:13、14では「誘惑」とも訳されています。このような意味をもったことばが使われているのです。「試練」と「誘惑」、それは内容が異なります。

「**試練**」 : それは私たちの信仰を試し強めるために神が用いる方法です

「**誘惑**」 : 誘惑は私たちを罪に引き入れるためにサタンが用いる方法です

でも、この原語はどちらもペイラスモスというギリシャ語が使われていて、それは「試みる」という意味を持ったことばです。

・**会うとき** : この意味は「与えられたとき、受ける時」です。ヤコブは「さまざまな試練に会うときは、」と言います。ある特定の試練ではなく様々な試練、それは肉体的な病気かもしれません。あるいは精神的な苦痛、苦しみのことかもしれません。また、社会的な迫害や経済的な困難

かもしれません。「いろいろな試練が与えられたとき、あるいは、受けるときは…」と言うのです。そして、「それをこの上もない喜びと思いなさい。」と言います。

皆さんもご存じのように、パウロという人物、彼の人生は多くの苦難多くの苦しみの連続でした。使徒の働き14：22にはこのように書かれています。「弟子たちの心を強め、この信仰にしっかりとどまるように勧め、「私たちが神の国に入るには、多くの苦しみを経なければならない」と言った。」と。パウロが経験したことがⅡコリント11：23-27に記されていますから、後に是非お読みください。（Ⅱコリント11：23-27「：23 彼らはキリストのしもべですか。私は狂気したように言いますが、私は彼ら以上にそうなのです。私の労苦は彼らよりも多く、牢に入れられたことも多く、また、むち打たれたことは数えきれず、死に直面したこともしばしばでした。：24 ユダヤ人から三十九のむちを受けたことが五度、：25 むちで打たれたことが三度、石で打たれたことが一度、難船したことが三度あり、一昼夜、海上を漂ったこともあります。：26 幾度も旅をし、川の難、盗賊の難、同国民から受ける難、異邦人から受ける難、都市の難、荒野の難、海上の難、にせ兄弟の難に会い、：27 勞し苦しみ、たびたび眠られぬ夜を過ごし、飢え渴き、しばしば食べ物もなく、寒さに凍え、裸でいたこともありました。」）

・喜びと思いなさい：パウロの人生は苦難、苦しみ、試練の連続でしたが、パウロはそこにあっても喜びを失うことはなかったのです。なぜなら、彼は「喜びの書」と言われる「ピリピ人への手紙」を獄中で記したからです。パウロはどんな状況の中にあっても喜びを失うことがなかった。そのパウロの喜びと同じ喜びだと思いなさいとヤコブは言うのです。ですから、この喜びは消え去る喜びではありません。私たちは「一喜一憂」ということばをよく使いますが、これは状況によって喜びがあったり喜びがなくなったりする状態を示すことばです。しかし、ここで使われている喜びは状況に関わりなくいつも継続して私たちのうちにある喜びのことです。

この喜びは皆さんご存じのように神との正しい関係にある人が持つ喜びです。神が与えてくださるこの喜びで「喜びと思いなさい」というのです。「喜びと思いなさい」は命令形です。「喜んでその試練を受け取りなさい」と言うのです。その理由が次の3節と4節に説明されています。そして、「喜びと思いなさい」の上に「この上もない」という修飾語が付いています。この上がないのです。ということは、最高です。最高の喜びと思いなさいということです。それは、人間的に見るなら最も好ましくない状況・状態のときでも、クリスチャンは最高の喜びを持つことができるということです。ヤコブはそのように言うのです。

パウロはローマ書5：3でこのように言っています。「そればかりではなく、患難さえも喜んでいきます。それは、患難が忍耐を生み出し、」と。また、ペテロもⅠペテロ1：7で「あなたがたの信仰の試練は、火で精錬されつつなお朽ちて行く金よりも尊く、イエス・キリストの現れのとくに称賛と光栄と栄誉になることがわかります。」と記しています。ペテロが言わんとしたことは、キリスト者にとって試練は純金よりも大切なもの、非常に価値のあるものだということです。

→ キリスト者にとって試練は純金よりも大切なもの、非常に価値があるもの それは、

a. 自分の子どもに対する愛のむち：ヘブル人への手紙12：5-7には箴言3：11-12を引用してこのように記されています。「：5 そして、あなたがたに向かって子どもに対するように語られたこの勧めを忘れていません。「わが子よ。主の懲らしめを軽んじてはならない。主に責められて弱り果ててはならない。：6 主はその愛する者を懲らしめ、受け入れるすべての子に、むちを加えられるからである。」：7 訓練と思って耐え忍びなさい。神はあなたがたを子として扱っておられるのです。父が懲らしめることをしない子がいるでしょうか。」、著書はあなたがたに与えられる試練は神の愛のむちであると教えるのです。試練は神の怒りではありません。神の愛の表れです。

b. キリストと同じような苦しみに会うことを喜びなさい：また、ペテロも苦しみに会うことを喜びなさいと教えています。Ⅰペテロ4：12-13「：12 愛する者たち。あなたがたを試みるためにあなたがたの間に燃えさかる火の試練を、何か思いがけないことが起こったかのように驚き怪しむことなく、：13 むしろ、キリストの苦しみにあずかれるのですから、喜んでいなさい。それは、キリストの栄光が現れるときにも、喜びおどる者となるためです。」と。ペテロはキリスト者が苦しみに会うこと、試練に会うこと、それはキリスト者が真にキリストのものだということを確証してくれるの

だから喜びなさいと言うのです。12節では「何か思いがけないことが起こったかのように驚き怪しむことなく、」と、自分が思ってもいなかったことが急に起こったかのように思うのではなく、この試練の背後で、キリスト者を信仰的に強く成長させる神の善なる計画を見るようにとペテロは言うのです。あなたに与えられているこの試練は神のみこころによるものだからそれを喜んで受け取りなさいと…。

「さまざまな試練に会うときは、それをこの上もない喜びと思いなさい。」、そうです。真のキリスト者、主によって本当に救われた者たちは主からの試練を喜んで受け取ることができるのです。なぜなら、その試練がどこから来るのかを知っているからです。ヤコブは同じ1:17でこのように言います。「すべての良い贈り物、また、すべての完全な賜物は上から来るのであって、光を造られた父から下るのです。父には移り変わりや、移り行く影はありません。」と。私たちキリスト者に与えられる試練は神から来るものだと言います。だから、それを喜んで受けなさい。最高の喜びを持って受け取ることができることを教えています。これが2節です。

4. 試練による変化 1:3

そして、3節では「信仰がためされると忍耐が生じるということを、あなたがたは知っているからです。」とあります。この箇所は2017年版の聖書ではこう書かれています。「あなたがたが知っているとおりに、信仰が試されると忍耐が生まれます。」と。試練によって私たちのうちに変化が起きる。あるいは、効果が生じる。それがこの3節で言われていることです。

・**ためされる** : 試練は信仰が試されるとあります。この「ためされる」というのは信仰が試練によって練られて行くその過程のことです。

・**忍耐** : そして、その結果として「忍耐が生じる」と記されています。「忍耐」、一般的に私たちが普通に使う忍耐は「ただ辛抱強く我慢すること」です。でも、ここでヤコブが言う忍耐は違います。ただ単に「耐える」ということではなく、試練に打ち勝っていくその力、それをヤコブはここで「忍耐」ということばで言い表しているのです。忍耐についてロイド・ジョーンズ先生はこのように教えています。「辛抱強く持ちこたえる力」、そして、「辛抱強く進み続ける力」と。ここでは、どちらかと言うと後のほうに力点が置かれています。「辛抱強く進み続ける力」だと。また、神学者パークレーはこの忍耐について「単に腰を下ろして何かに耐える能力を意味するものではない。反対に、立ち上がって何かに打ち勝つことを意味する」と。「立ち上がって何かに打ち勝つことを意味する」と言います。

だから、この忍耐は受け身のことでなく能動的なことです。自分から働きかける、そういう力のことです。それをヤコブはここで「忍耐が生じる」と教えるのです。試練が与えられる時に私たちのうちに忍耐が生じるのです。3節の最後に「あなたがたは知っているからです。」と書かれています。これは知識として知っているということではなく、自分の体験を通して知っているということです。ヤコブは「あなたがたはそのことをもう知っているでしょう」と言うのです。なぜなら、この手紙を書き送った相手はすでに様々な試練の中にいたからです。その人たちにこの手紙を書き送ったから「あなたがたはこのことを知っているでしょう。自分の体験を通して知っているでしょう。」と言うのです。

パウロはローマ5:3で「そればかりではなく、患難さえも喜んでいます。それは、患難が忍耐を生み出し、」と記しています。この「生み出し」は「作り出す、練り上げる」という意味を持ったことばです。また、パウロはⅡテサロニケ3:5でもこう言います。「どうか、主があなたがたの心を導いて、神の愛とキリストの忍耐とを持たせてくださいますように。」と。このことを考えると私たちのうちに試練を通して与えられる忍耐は主の働きによって私たちのうちに作り出されるものだということが分かります。私たちが自分の努力でこの忍耐という力を得るのではなく、神が働いて私たちのうちに忍耐という力を与えてくださるのだとパウロはこのⅡテサロニケ3:5で教えて

いるのです。3節の要点を簡潔に言うなら「信仰が試練によって練られるとき、私たちのうちに変化、効果が起きる。その変化、効果とは忍耐が私たちのうちに作り出されていくこと」です。

5. 試練による成長 1 : 4

ヤコブは4節で「その忍耐を完全に働かせなさい。そうすれば、あなたがたは、何一つ欠けたところのない、成長を遂げた、完全な者となります。」と記しています。試練によって生まれたその忍耐を働かせるとあなたがたは完全な者になるとヤコブは言うのです。

1) 完全な者となる : 「忍耐を完全に働かせなさい」とありますが、「完全」とは「十分に、余すところなく」という意味を持っています。そして、「働かせなさい」は「作用させなさい、用いなさい、使いなさい」ということです。だから、試練によって強められ作り出されたその忍耐を十分に用いなさいと言うのです。そして、そうすれば「何一つ欠けたところのない、成長を遂げた、完全な者となります。」とヤコブは言います。

「何一つ欠けたところのない」とはあらゆる部分で成熟し、また、バランスの取れた状態を言い表します。そして、「成長を遂げた」は2017年版聖書では「成熟した」ということばが記されています。「霊的に成長した」ということです。そして、「完全な者となります」、これはパーフェクトな人間になるということではありません。「罪のない完全」を言うのではなく、キリスト者としての品性における霊的成長を強調しています。神と人にとに仕えるのにふさわしい者、すなわち「霊的に成熟したおとなになる」ということです。

a) ローマ5 : 4 :パウロは先ほど見たローマ5 : 3の次4節でこのように記しています。「忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出すと知っているからです。」と。この「練られた」とは「純度が増していく様子」で、不純なものがどんどん取り除かれていく状態です。このことを別のことばで表すなら「私たちクリスチャンの品性が益々イエス・キリストに似た者へと変えられていく」ということです。

b) ヘブル12 : 10b-11 : このように試練による成長によって完全な者となるとヤコブは教えますが、ヘブル書の著者もこのように教えています。12 : 10b-11「…霊の父は、私たちの益のため、私たちをご自分の聖さにあずからせようとして、懲らしめるのです。:11 すべての懲らしめは、そのときは喜ばしいものではなく、かえって悲しく思われるものですが、後になると、これによって訓練された人々に平安な義の実を結ばせます。」と。著者はここで私たちに何を教えているのでしょうか？それはこういうことです。神は私たちにどんな試練が必要かよくご存じだということですから、その神が私たちに与える試練は私たちにとって益となるものだと言うのです。

確かに、試練には苦痛・苦しみが伴うので、初めはそれを受けたときには悲しく思われるかもしれないが、後にはその試練によって私たちのうちにすばらしい「平安な義の実を結ばせます」と言うのです。「平安な義の実」、それは「より信頼する神との正しい関係によるキリスト者としてふさわしい霊的に豊かな実」のことです。だから、ここで教えられることは、試練という主の刈り込みによってその結ぶ実には本当に霊的に豊かな実であって、それを私たちのうちに実らせるということです。まさに、ヤコブが言う「完全な者となります」、霊的に成熟した大人になるのです。これが試練による成長の結果です。

恐らく、すべての方が過去に多くの試練を味わったでしょう。また、今も試練の中にいる方がおられるかもしれません。そのような与えられた試練に絶望していませんか？もうダメだ！と思いませんか？私たちはそのような試練を受けているのではないということです。与えられた試練は「私たちを霊的に成長させる神のご計画」です。ですから、そのご計画に基づいて私たちに試練が与えられた、あるいは、今与えられているということです。だから、絶望してはいけません。それに打ち勝つ力さえも私たちは得ているわけですから、私たちがその試練を通して益々イエス・キリストに似た者になるという、そのような計画を神はお持ちだということです。

今日はヤコブの手紙の1 : 1-4から「試練による成長」ということでみことばを見て来まし

た。本当に、私たちに大きな希望、大きな力をこの箇所は与えてくれると私は思っています。なぜなら、ヤコブがこの手紙を書いた相手がそのような試練の中にいたからです。どうしてもヤコブはその人たちを励まし奮い立たせたいと、その思いを持ってこの手紙を書き、その冒頭に、「試練による成長がある」ということをこの人たちに伝えたかったのです。

今日のメッセージの最後にウォーレン・ワーズビーが語ったことば（太字の部分）を皆さんとともに見て終わりたいと思います。「もし私たちが神に委ね神により頼んで、神が私たちにするように告げておられることに従うなら、神は人生の試練の中でご計画を達成していかれます。」私たちが神に従うということが非常に大切であり、そして、そのような人々を通して神はご自分の計画を達成していかれるとワーズビーは言います。そして「**困難は私たちの信仰を増し加え、祈りの生活を強めてくれるのです。**」、皆さんはよくご存じです。皆さんも困難や試練に会ったときにこのような経験をすでにしているからです。ワーズビーはこう続けます。「**また私たちが他のキリスト者にいっそう近づけ、重荷を負い合うようにさせてくれます。**」、これが私たちに及ぶ困難、試練だと言うのです。そして「**困難はことに、神の栄光を現すためにも用いられます。それで試練の中にあるとき、神があなたにとって何であるか、また、神があなたのために何をしてくださるかを思い起こしてください。**」と、ワーズビーはこういうことばを書き記しています。

最初に言いましたが、神は私たちに最善をなさる方です。だから、神から来るもので悪いものは一切ありません。神から来る試練もこれを通して私たちが成長し霊的なおとなになるためのすばらしい恵みです。だから、ぜひ今日このことを覚えて、一人ひとりの上に起こる試練がどのようなものであろうとも、皆さん、奮い立ってその試練に打ち勝っていきましょう。